

高齢者大学文芸部 10月歌会

燃えつきし蚊取線香皿の上白々として渦巻きはあ
り 荒木 幸
蜘蛛の巣にかけりし枯葉風に揺れ蝶の舞ふが見
ゆる夕ぐれ 中村トメ子
椋の実の落ちし公園黒き実をふふめば甘く遠き日
思ふ 北村 玉恵
老介護を受けでさつと逝きたしと茶飲み話しの最
後は一つ 梅野かをり
「奥の細道」なぞりて書けば蟬塚を目指して行き
し旅と重なる 山代 静子
嫁ぎきて悲喜交々の歳月を重ね迎ふるダイヤモン
下婚 小池ミエ子
幾年を栗の実共に拾ひしを笑顔残して妹逝きぬ
中原 光子

君亡きは夢のごとしも今もなほ歌ひ給ひし声聞
こゆる 氏岡 百枝
菜園は老夫の生き甲斐朝夕を灌水せわし早魃の秋
乾き土に唐薯太り掘りゆけば紅色やさし孫に送ら
む 今坂 文子



万句の里俳句会 10月句会

参道の掃き清められ秋祭
偲ぼる夫の尺八月の庭 茨木 幸子
名月やこころ素直になりけり 松永 久子
闇に火の殊更赤し菊を焚く 中路 郁子
初鴨に藻の美しき流れ川 高木 陽子
部活の案山子並びて学校田 鋤本 トミ
木犀の香りをつれて風つれて 田中ひさ子
木犀の香りが客間引き立てり 東 鈴子
秋天に吸ひ込まれ行く我が身かな 稲田 羚子
校庭に大樹十本金木犀 斉藤 貴恵
病室の空の静寂を鳥渡る 梅田 昭子
開きたる句帖を照らす今日の月 光本とよいち
小山 照子

肥後狂句桜会 例会入選句集より

強かねえすべて一本勝ちだった
騙されて後の祭りの保証人 小川 繁美
うろたえて 転がり落ちた震度六 須藤 新生
強かねえ 点滴だけで二十年 狩野 本六
うろたえて 乗ったら逆に動きだし 太田 雄三
強かねえ 花の区間でごぼう抜き 高倉 新米
今が峠 台風の間にはいつとる 北村 竹刀
うろたえて 荷はバス停に置き忘れ 田中 孝幸
高木 房枝

泗水短歌会 10月詠草

空回りあの国にや何ンも通じん 光堀 善教
騙されて 太らかしたらオスばかり 藤由 藤紫
うろたえて シートベルトの間に合わん 窪田 明徳
騙されて 四月馬鹿とは思とらん 藤野 清子
朝経の肩に付きくる秋の蚊を手で払ひつつ読経を
つづく 増田久美子
乳いろの液体管にて食む母の今日の夕餉よな味
ならむ 吉安 永子
利平栗師に捧げたれば栗園の宣伝されて恐縮し居
り 内田つね代
義兄妹七人おりしもいま三人離れ離れに疎遠勝な
る 大島 きた
虫の音の声高く鳴く夜は更けて星月淡く大気の澄
めり 宮本 峯子
秋が来て悠然と咲く老桜倒れしままのかたちまた
佳し 高藤タツノ
供花の菊葉は枯れたれど白も黄も色を保ちぬ御霊
のごとく 長尾はるみ
名月と言うも親しき餅搗を確かめに人類は行きて
立ちたり 中山 定子
今在らば彼岸花愛でいる夫ならん今朝は供花にと
一株手折る 平嶋きくえ

せせらぎ俳句会 10月例会

花活けて病室を去る良夜かな 服部 静子
リストラとなりて案山子の納屋に在り 五丁 義昭
散る萩に触れて今年の別れかな 村山 数恵
カーテンは閉めずベッドに寝待月 内村 泊虹
秋桜ピアノに彩を映しをり 藤本アツ子
秋早農夫ならずも愚痴いくつ 藤本 邦治
音もなく銀木屋の散る夕べ 寺本 和子
小鳥の声どの木ともなく神の苑 坂本まつえ
風鈴を撫でいたわりて仕舞ひけり 内村 鈴子
あけびの実林の中にあちこちに (中二) 渡辺 大寿

虫の声庭さん出たら鳴き止まず 英 坊

七城短歌会 10月詠草

手を離れ落ちたる音に目覚めたり癖なる午睡に打
撲の新聞 佐々 重弘
古稀すぎし我らの競技スタートラインライバル再
会闘志みなぎる 緒方 寛子
坂道を登りつつふと躓きぬみづからの老思う夕暮
れ 松岡ミチエ
コスモスを車窓に見し妹吾訪ひき後泣き施設に帰
らぬと言ひし 池田カツ子
早朝の散歩に離れず歩調合わすしばし伴侶の淡き
半月 水田紗陽子
山の端に出でたる満月上らずに我に向こうがの錯
覚に酔う 高木 精
歯を磨く我と朝餉の支度する妻との肩がソフトに
触れる 村上 幾雄
外灯を消し忘れしと窓開けて見れば西山に名月が
照る 岩下ミツエ
専用の舟で海原突つ走る目指すイルカの大群に逢
う 池田 禮子

旭志文芸俳句会 10月詠草

日和つづき新葉かわき匂いたつ 芹川のり子
新葉のほひゆたけし小春日に 水谷 ミネ
特攻に散りしはらから返り花 芹川 蓉子
つるべ落しすとんと落ちて我孤独 出田みどり
運動会よちよち歩きも走ってる 郷 ミヤ子
すぐそこに国後の見ゆ秋の海 中尾ヨシコ
ネバネバのオクラにパワー貰う日々 東 芳子
刈り終えて鎌を研ぎ終え一礼す 中山 栄子
縁側の芒ゆらりと雲散らす 東 由香

肥後狂句水笑会 10月例会

残念至極 何へん見ても次点ばな 好 茶
残念至極 核は全然無くならん 美 由
かすくり寄せ 残飯ばかりのさる嫁 水 光
かすくり寄せ 鍋の底まで光つとる 乗 仏
かすくり寄せ 全財産はこれつきり 美 樹
医者泣かせ 葉草煎じり飲みよらす 三 代
区長さん 一人暮らしに声かける 五 女
かすくり寄せ 証抛煙滅計らした 三 水